

### 第3回 11月19日(日曜) 目指せ秋の自然マスター!

#### 「秋の里山 じっくり観察 どっぷり満喫」

- ・場所 おっ越し山ふれあいの森ほか
- ・講師 小林健人(長池公園副園長)

子どもの発見と質問に応えながら始まる。「秋の種と実」とん鈴前でトクサのつくしんぼとツワブキは美味しいと話が始まる。おっ越し山でフジの実、ネムノキ、ハゼの実。キバナアキギリの花は面白い! ムラサキシキブの実はきれいだが美味しくない! アオハダはどうしてと引っ掻くと…。おっ越し山は何とオオタカの調理場なんだって! 散歩道の木の上でヒチュリリーと鳴くのはリュウキュウサンショウクイ。柿生の里でヤブマメ etc



### 第4回 12月3日(日曜) 柿生の里の収穫祭

#### 「里山の作業をしたり、作ったり、そして収穫祭」

- ・場所 柿生の里特別緑地保全地区
- ・講師 柿生の里クラブメンバー



前回からわずか1週間のうちに季節は進んだ。葉っぱもたくさん落ちて柿生の里は冬の様相です。今回は初めて事前準備にと3組の親子さんが来てくれた。遊ぼうパン、焼き芋用の「火」を作ります。孟宗竹をのこぎりで全員切ることができました! 落葉掃きは楽しいね! 炭で焼く遊ぼうパンは美味しい。賞状も全員に。皆勤賞はふるさとナチュラリスト証。みんなの笑顔でスタッフ一同も安堵しました。



# 里地里山ナチュラリスト養成講座

## ★里地里山★を知って・学んで・動こう！ あしたへ



### 春を感じて 里山散歩 ①

#### ～早野探訪～

3月20日（水曜-祝日）

午前9時20分～午後2時頃

早野聖地公園のある早野はその昔七つのため池の水を利用した田んぼが谷戸から早野川へと続いていました。さて今は？ 風景にかかわる方々のお話を聞きながら、早野の春を探訪します。



【風景の成り立ちを学び考えよう！】

バス停 早野から丘陵の付け根の矢崎前から横浜市鉄町との境の「鉄火松」へ。松にまつわる民話は紙芝居になって口演されているそうです。この尾根道は古からの道。旧石器時代から近世の複合遺跡の発掘中の上野原を臨みます。早野の地名の由来は早くから切り開かれたというハラノ→ハヤノではないかという説がしっくりきます。梨畑や養鶏場を抜けて殿様の墓、戒翁寺、早野聖地公園へ。天候の変化にせかされつつ中の谷の尾根越えで梅が谷戸の炭焼き小屋へ。早野聖地公園里山ボランティアの活動場所です。伐採木枝でのシイタケやなめこの栽培で資源循環の様子を見学できました。

上池の満開の菜の花畑に感動しつつ尾根越えで虹ヶ丘の住宅街へ。風景の落差を整理しつつ新しいコミュニティ作り

に励んで来た虹ヶ丘おやじの会のお話を聞きました。東急が目指す繋がりや交流の場でもある nexus チャレンジパーク早野は営業日外のためお話は聞けませんでした。

里地里山ナチュラリスト養成講座 ☆里地里山☆を知って・学んで・動こう！ あしたへ

### 春を感じて 里山散歩 ②

#### ～岡上探訪～

3月24日（日曜）

午前9時50分～午後1時頃

川崎市の飛び地 麻生区岡上。暮らしの歴史とともにくままれてきた里地里山風景がひろがります。どんな春が来ているでしょうか？ 石造物などを巡りながら、地域に伝わる民話の紙芝居も鑑賞します。



第18回おたしの木のふもとに作る馬身草宮園に幸せられた早草から、兵下宮堂 撮影 昨年のもも木の岡上の落も春 「馬山に巻が来た」

谷戸の辻の石造物

岡上には岡上の人々が営々と築いてきた農の暮らしとその上で形成されてきた里地里山の風景があります。

「水の里」「果樹の里」「花の里」でもあります。また川井田、自正寺（天神、梨子木）、池ノ谷、新田の谷戸があり、宅地化が進んだ現在でも全域で谷戸地形が残ります。舌状大地の付け根の丸山には縄文時代から奈良・平安時代までの複数の時代にまたがる集落遺跡があり、住みよく暮らしやすい土地柄だったのでしょう。そしてそこに現在の岡上もあります。

鶴見川の大正橋付近ではカワセミが見られました。川井田の辻の石造物～谷戸の辻の石造物～営農団地へ。観光農園やまかげではブルーベリーの接ぎ木作業をしておられました。岡上分館では昔の暮らしの身近にあった川（かっぱ）、柿、養蚕を題材にした紙芝居を楽しみました。地域の暮らしの歴史を繋ぐ試みに勇気づけられました。





## からむし講座

麻生区の地名が由来する植物 麻=からむし(苧麻)を学ぶ講座です。毎年繊維がとりやすい6月から7月にかけて開催します。講座では縄文時代からの人と自然のかかわり-文化をつむぎ、次世代に伝えようと試みています。



### からむしボランティア 研修

7月2日(日曜) 麻生市民館 料理室 午後2時~4時

- カラムシという植物を知って、「親子で楽しむからむしワークショップ~紙漉き編」の準備です。
- 指導 高柳芳恵(ナチュラリスト)
- 協力 里山フォーラム in 麻生 幹事・スタッフ



参加者それぞれ楽しんでます



### からむしのこえ 上映会

7月8日(土曜) 午前9時30分~12時 麻生市民館 実習室  
麻生区の地名が由来する植物 麻=からむし(苧麻)の文化を映像で学ぶ

国立歴史民俗博物館から記録映画『からむしのこえ』のDVDをお借りし上映会を開催しました。里山フォーラムでは日本民族文化映像研究所制作の『からむしと麻』を拠り所に体験学習を進めてきましたが、『からむしと麻』制作時から30年を経て、昭和村の織姫制度で繋いで来たからむしの技術や文化を学びました。監督:分藤大翼(信州大学准教授)

- 映画終了後の麻生のからむし体験(苧引きや糸づくり)では皆作業に夢中になりました。
- 案内 石井よし子(麻生のからむし探索家・里山フォーラム in 麻生事務局長)

7月23日(日曜)

あさおしみんかん りょうりしつ  
麻生市民館 料理室

午前9時45分~12時頃



からむしで紙づくりにチャレンジ!

- \* からむしってなに?
- \* どうしたら紙になるの?
- \* 不思議な世界を体験してみよう!

講師 高柳芳恵(ナチュラリスト)  
協力 からむしボランティア



万福寺鮮紅大長人參は、現在の麻生区万福寺とその周辺地区のかつての特産品で、全国野菜品評会において昭和 29 年から 5 年連続で日本一になった人參です。

この人參は畑の土づくりに励み幾多の困難を乗り越えると 80 cm-90 cm級の長さに成長しますが、努力を重ねてもなかなかそうはいかないのも、毎年栽培に挑戦する力になると語る栽培者の方々もいます。甘みが強くこくがありお正月はこの人參が欠かせなくなります。先人たちの苦勞に思いを馳せ、工夫を凝らしながら畑作業をしての作品が毎年 12 月の品評会に集まってきました。

ところが今年度は、この人參の種蒔き適期(=7月中旬)に酷暑続きの異常気象が重なって、「種蒔き⇒発芽」がうまく行かず、今年はだめだよというお話がたくさん寄せられました。そんな中 12 月 23 日(日曜)の《**第 23 回万福寺人參品評会-私の万福寺人參を語り合う会-**》を迎えました。お互いに仲間に声を掛け合って出品に漕ぎつけた人參が 29 組！

なお今年度も味覚賞は審査できませんでし

たが、審査委員(成松次郎 長瀬和徳 岩本陽児 山本奈保美 齊藤誠)による厳正な審査のもと、以下の賞が決まりました。

- ・最優秀賞-古川美賀(黒川東)・姿(ルックス)賞-岩淵佳子(黒川東)・色彩賞-小林貴也(黒川東)・香り賞-二見萌菜(明治大学生田校舎農場)・努力賞-金程小学校 2 年(校内)
- ・努力賞-田中陸斗(明治大学生田校舎農場)
- ・ユニーク賞-深沢祐二(黒川東)

審査中の別室での「語り合う会」では、酷暑ならではの工夫の数々を真剣に聞き合います。8 月の、2 回目、3 回目の蒔き直しをした苦勞を伝え合いました。夏は絶望を味わい、そこから巻き返したとも。明治大学生からは 6 月に種蒔きをしたと聞き、それには納得と、来年に向けて心新たに栽培へと駆り立てられる時間でした。



## 展示で賑わいました！(2024 年 2 月)

- 新百合 21 ビル市民ギャラリーにはフォーラムの事前展示として 14 団体が展示。助け合いながら交流の場にもなりました。
- 麻生市民館のウォールギャラリーでは写真展の今-昔編、今編の写真が壁面いっぱい並び圧巻でした。そして何より足を止め 1 点ずつ見て多くの方が感想を書いてくれました。



催 10月31日 多摩市民館  
 かわさき創造プロジェクト主催  
 方々と交流できました。NPO  
 ショーンを行い、川崎地域の  
 15回シニアライブ講演会  
 ではパネル展示とプレゼンテ



**感謝** 講座やイベントへの参加者の皆様、講師を務めてくれた先生方、伴走してくれた生涯学習支援課職員はじめ市民館職員の皆様、小学校、柿生中学校、団体や施設の皆様、力を合わせてくれたボランティアスタッフ、幹事に深く御礼申し上げます。

主催 里山フォーラム in 麻生/麻生区生涯学習支援課(麻生市民館)  
 里山フォーラム E-mail satoyamaforum@gmail.com TEL 070-6426-6123  
 麻生市民館 TEL 044-951-1300

だより編集、文責-石井よし子  
 写真-雛倉正人、山口幸紀、  
 田中肇、石井よし子